

製品名: RIP2 (リン酸化 Ser176) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05376**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	RIPK2 RIPK2; CARDIAK; RICK; RIP2; Receptor-interacting serine/threonine-protein kinase 2; CARD-
別名	containing interleukin-1 beta-converting enzyme-associated kinase; CARD-containing IL-1 beta ICE-kinase; RIP-like-interacting CLARP kinase; Receptor-in
遺伝子 ID	8767.0
SwissProt ID	O43353
免疫原	抗血清は、Ser176 のリン酸化部位周辺のヒト RIPK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 146-195

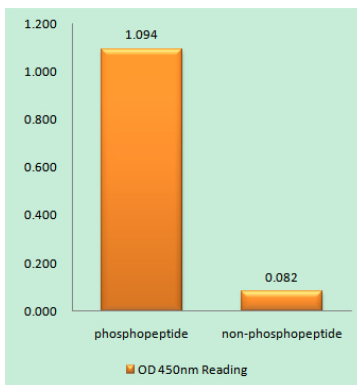
背景

この遺伝子は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼの受容体相互作用タンパク質 (RIP) ファミリーのメンバーをコードします。コードされるタンパク質はC末端カスパーゼ活性化・リクルートメントドメイン (CARD) を含み、自然免疫経路と獲得免疫経路の両方におけるシグナル伝達複合体の構成要素です。NF- κ B の強力な活性化因子であり、様々な刺激に対するアポトーシス誘導因子です。[RefSeq 提供、2008年7月]触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: プロカスパーゼ1およびプロカスパーゼ8を活性化します。CASP8を介したアポトーシスを増強します。NF- κ Bを活性化します。PTM: 自己リン酸化されます。DNA損傷時に、おそらくATMまたはATRによってリン酸化されます。類似性: プロテインキナーゼスーパーファミリーに属します。TKL Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。類似性: 1つのCARDドメインを含む。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: CFLAR/CLARPおよびCASP1のCARDドメインを介して結合する。BIRC3/c-IAP1、BIRC2/c-IAP2、TRAF1、TRAF2、TRAF5、およびTRAF6に結合。TNFRSF1AおよびTNFRSF5/CD40受容体複合体の両方の構成要素となる可能性がある。組織特異性: 心臓、脳、胎盤、肺、末梢血白血球、脾臓、腎臓、精巣、前立腺、膵臓、およびリンパ節で検出される。

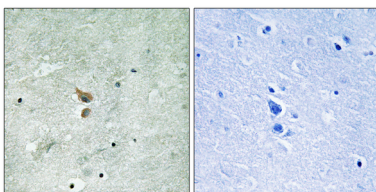
研究分野

NOD様受容体;神経栄養因子;

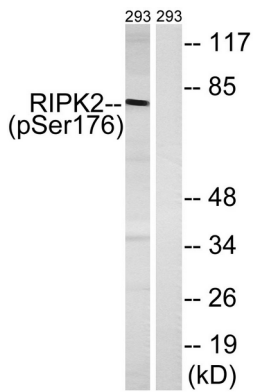
画像データ



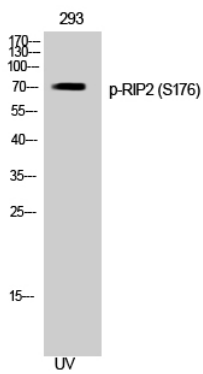
RIPK2 (リン酸化Ser176) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化ELISA)



RIPK2 (リン酸化Ser176) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



RIPK2 (リン酸化 Ser176) 抗体を用いた、UV 15'処理した 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 RIP2 (S176) ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析